

## FY2023 3Q (2023年3月期 第3四半期) 決算説明会 Q&A

●第1回：2023年2月1日 (Q1~Q16)

●第2回：2023年2月21日 (Q17~Q19)

第1回 2023年2月1日 (Q1~Q16)		
Q1	SPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受注に関して、3Qは2Qを上回って好調とのことだが、この先の受注に関して見えている範囲で見通しを教えてください。</li> <li>・CY2023のWFE見通し (CY2022比15~20%減) に対して、SCREENはどのようにパフォーマンスするのか教えていただきたい。</li> </ul>
A1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(受注開示は控えているが) イメージとしては、4Qも更に高い水準の受注になるだろう。現状、我々の生産能力は受注に対して若干律速しているが、S<sup>3</sup>-4の稼働が徐々に軌道に乗ってくれば、受注水準は更に上げていける。</li> <li>・CY2023のWFEは減少想定だが、我々は受注水準を高く保っていけると考えており、WFEに対しアウトパフォーマンスもあり得る。</li> </ul>
Q2	SPE	3Qの営業利益率が18%台に下がったが、通期予想から差し引きすると4Qは営業利益率が22%台に回復する見通しとなる。これは原材料価格の高騰があっても、S <sup>3</sup> -4の稼働が収益性改善に寄与する、ということか？
A2		原材料価格の高騰は4Qも継続する。S <sup>3</sup> -4の稼働は若干収益性改善に寄与するが、原材料価格の高騰の影響が大きい。だが、経費コントロールを含む内部努力を実施してゆくことで、今期の計画は達成可能である。
Q3	SPE	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2Qの決算説明会において、「今下期も受注は堅調に推移する見込みなので、来上期の売上に対するビジビリティは高い」との発言があったが、現時点でその見方には変わりないか？</li> <li>・来期のWFEに対してアウトパフォーマンスの可能性について、アプリケーションごとの動きや、シェアの動きはあるのか？</li> </ul>
A3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・3か月前と見方は変わっておらず、来上期の売上はほぼ担保されている。CY2023の前半はファウンドリーが堅調な投資をされるため、我々は安定的な受注、売上が可能と考えている。</li> <li>・シェアに関して、メモリーは投資減速と言われているが、弊社はメモリーへのエクスポージャーが比較的低いので、ミックスという意味では有利であろう。また微細化に対するいろいろな取り組みも成果が出てきている。</li> </ul>
Q4	SPE	原材料価格高騰は、装置価格に転嫁できる状況か？逆にデバイスメーカーもコストが厳しいので、来期に向けて値下げ要求などあるか？
A4		顧客との交渉についてはコメントできないが、収益性の改善は継続して取り組む課題。現在立案中の来期計画の中で、原価低減と合わせ価格転嫁の努力も継続していく。
Q5	SPE	原材料価格高騰に関して、3QのSPE業績にどれくらい影響があったのか？また、今後どのようなタイミングで挽回できるのか？

A5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・金額的には申し上げにくいですが、変動費率で数ポイントの影響とご理解願いたい。(補足：QoQ 減益要因のうち、採算性の悪化は約 10 億、営業利益率への影響としては 1%程度)。</li> <li>・挽回については、S<sup>3</sup>-4、S<sup>3</sup>-5 による生産効率向上を始めとした原価低減への経営努力や価格転嫁への努力も含め、取り組んでいく。半導体業界では装置価格への転嫁は容易ではない。</li> </ul>
Q6	SPE	ポストセールスの通期売上計画修正の背景は？元のペースに戻る時期は？
A6		単純にお客様での改造実施時期がスライドしていったことが原因である。3Q の予定が 4Q にスライドし、4Q の予定が次の期にスライドした。改造は収益性も良いため、この点で 3Q の営業利益率に影響があった。
Q7	SPE	足元の受注好調との事だが、どういったアプリケーションか？
A7		内訳の開示はしていないが、ファウンドリーからの受注が柱になっている。
Q8	SPE	メモリー顧客の投資についてはどうか？
A8		メモリーのお客さまも戦略投資は継続するし、投資を減額せずに計画されているお客さまもある。我々のメモリーへの(あまり高くない)エクスポージャーなりに受注はしている。
Q9	SPE	来期業績の増収、増益の見方についてアップデートはあるか？
A9		現在足元で来期計画を立案中である。イメージではあるが、来期は今期より強め(売上、利益とも)にできるだろう。
Q10	SPE	来期(中計の最終年度)目標値について。「達成可能とは言えないまでも、顧客ベースや生産体制の拡充によって増収増益は出来そうだ」、というニュアンスか？
A10		現在来年度の予算策定中であり、質問に対するコメントはご容赦いただきたい。今期よりは強い(増える)イメージを持っている。
Q11	SPE	4Q の営業利益率について、22%の達成にリスクはあるか？
A11		自信はある。案件スライドの可能性は常にあるが、現状では目標が達成できると考えている。
Q12	SPE	SU-3400 のリリースによって競合の高生産性洗浄機への対策はバッチリだと思うが、新乾燥技術やドライ洗浄などの競争環境はどうか？
A12		SU-3400 に搭載出来る洗浄ユニット(機能)を今後増やしていく。お客様が新たな洗浄能力や乾燥能力を要望された場合にこの装置に搭載できるよう、新たな取り組みも併せて開発をしていく。
Q13	SPE	CY2023 の WFE 見通しについて、中国市場のマイナス影響はどの程度含まれているのか？
A13		対中輸出規制が WFE に与える影響は不透明である。今回説明した見通しは、日本の製造装置メーカーへの影響はほとんど無いと考え、精査している。WFE には中国の装置メーカーも入るため、そこも含めて現状不透明である。
Q14	SPE	CY2023 の WFE マイナス成長について、ファウンドリー、ロジック、メモリーと分けるとどうなるか？
A14		ファウンドリーは今期同等、ロジックは若干低調であろう。メモリーは大幅減少、パワーデバイスや「その他」は少し上がるだろう。
Q15	SPE	御社の売上成長率は、過去は生産能力の限界があって WFE 成長に満たなかったようだが、現在それを取り返している状況であると考え。そうなると、今は受注が強いが、生産能力が追いついた後は、(顧客の投資動向に合わせて)落ちてゆくことは考えられるか？

A15		我々の受注方法は、納期が確定したもののみ受注としている。3Q の受注分の売上は非常に堅いし、4Q もかなり見えている状況。それを積み重ねていけば、来期・上期の売上はしっかりと作れる（ほぼ見えている）。下期についてはこれから精査する状況だが、受注に大きな減速は無いと見込んでいる。それ以降に関しては、投資動向次第となる。
Q16	FT	新しい装置（SK-P1501G、SK-P2200G）には新しい機能があるのか？
A16		この装置は LTPO（低温ポリシリコンと酸化物半導体の混合物）基板を見越して開発しており、高精細なパーティクル制御や電気制御を搭載している。
<b>第 2 回 2023 年 2 月 21 日 (Q17~Q19)</b>		
Q17	GA	足元好調だが、2024 年 3 月期の見通しはどうか？
A17		欧州は紙不足の影響から投資を控える動きがある。一方、米国では環境対応の観点から POD（プリントオンデマンド）化が進み、欧州市場の落ち込みを補うと想定している。来期も今期プラス $\alpha$ の売上規模はあるだろう。
Q18	FT	足元の状況および今後の見通しは？
A18		市場環境からすると、今期と来期の売上は厳しい状況だ。リソースの一部を SPE や HD へ移管するなど、赤字幅を極力抑制する見通し。再来期の OLED ディスプレー需要（G8、大型 TV 向け）の回復を期待する。
Q19	PE	足元の状況および今後の見通しは？
A19		今期は絶好調。半導体市況の悪化に連動して足元の受注は減速気味だが、来期も営業利益率 15%程度は安定的に維持できる実力になっている。市況回復に備え、来期は粛々と新製品開発を進めていく。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、  
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業